



# 知って安心

# わたしたちの暮らしと アスベスト



いま、アスベスト（石綿）による健康被害が深刻な社会問題になっています。

市は、7月に『登別市アスベスト対策連絡会議』を設置し、情報収集や市の施設のアスベスト使用状況の調査、応急対策などを行ってきました。

今月号では、アスベストについての不安や疑問、市のアスベスト対策について、Q & A形式でお答えします。

## Q アスベストとは何ですか？

**A** 鉱物の一種で、安価な工業材料として、スレート材やブレーキライニング、ブレーキパットなどの防音材、断熱材、保温材、吸湿材などに使われています。

国内の使用量の約80%は、建築材料として使用されていますが、これは吹き付けアスベストやアスベ

スト含有吹き付けロックウール（岩綿）など、飛散の恐れのある（飛散性）アスベスト含有建材と、屋根や壁材などのアスベストスレート、アスベストセメント板などの飛散の恐れのない（非飛散性）アスベスト成形板の2つに大別されます。

吹き付けアスベストの使用は、昭和50年に禁止されましたが、ロックウール吹き付けの一部は昭和55年まで、また、個別に認定を受けた吹き付け工法の中には、昭和63年までアスベストを含有したものがあります。これらは経年劣化によるはく離などにより、大気中にアスベストが飛散する恐れがあるため、劣化状況によっては早急な対策が必要です。

一方、非飛散性のアスベスト成形板は、通常の使用では健康に心配はないとされています。

現在、『アスベスト含有建材』とは、アスベストが1重量%を超えて含まれる建材と規定されていますが、建築物の改修・解体工事を行う場合、アスベストが飛散しないよう適切に対処することが求められています。

## Q アスベストはどんな特性を持っていますか？

**A** アスベストは、その繊維が極めて細く、容易に空中に浮遊するため、人の鼻や口から体内に吸入しやすいという特徴があります。

また、通常は、半永久的に分解・変質せず、地表に落下したものでも再び空中に飛散するため、環境蓄積性が高い点で、ほかの汚染物質と異なる面をもっています。

## Q なぜ危険なのですか？

**A** アスベストは、目に見えないくらい細かい繊維のため、気づかないうちに吸い込んでしまう可能性があります。

また、丈夫で変質しにくいいため、吸い込んで肺の中に入ると、15〜40年の潜伏期間を経て、肺がんや悪性中皮腫（悪性の腫瘍）などの病気を引き起こす恐れがあります。

## Q 吸い込んだアスベストは除去できますか？

**A** 一旦吸い込んだアスベストは、一部は痰のなかに混ざり、体外に排出されますが、大量のアスベストを吸い込んだ場合は、除去されずに肺の中に蓄積されます。

## Q 肺がんや悪性中皮腫の発病を予防するにはどうすればよいですか？

**A** 現在、有効な手段は明らかではありませんが、アスベストを吸い込んだ方すべてが発病するわけで